

次代を担う子どもたちを、学校・家庭・地域が協力して育む

平成20年度（2008年度）に始まった国が推進する事業で、10年経った平成29年（2017年）現在、地域コーディネーター配置校は9校になりました。大勢の大人たちがボランティアとして子どもたちに関わることで、世の中には多様な価値観があることを伝えながら子どもの健やかな成長に寄与し、同時に大人の自己実現にもつながっています。宝塚市学校支援地域本部事業実行委員会の委員長にお話をお聴きました。

元々は国からの委託事業だった

家庭や地域の教育力が低下したと言われ社会が複雑多様化する中、子どもを取り巻く環境が大きく変わり学校に多様な役割が求められるようになった。60年ぶりの教育基本法改定で「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」の規定が新設され、それを具体的に進める方策の柱として「学校支援地域本部事業」を実施することになった。事業の目的は「学校教育の充実」「生涯学習社会の実現」「地域の教育力の向上」の三つ。

宝塚市はこの取り組みに親しみやすい「たからづか学校応援団」という愛称を付けて平成20年度（2008年度）より開始。最初の3カ年は国のパイロット事業として実施できるが、その後はどうなるのか手探りの状態だった。

「この活動って、もうしてたやん！」

宝塚市の市立学校は学校によって児童生徒数に大きな開きがあったり、地域によって抱える事情が様々だったり、学校も家庭も地域も事情や課題を一括りに考えることはできない。そういう中で画一的に事業を展開するのは避けたかった。

そこで1年目にこの事業の実行委員会を設置し、市立小・中学校の学校長、PTA協議会会長、学識経験者、教育委員会職員等が実行委員となった。そして市立小・中・養護学校、計37校に必要な支援についてアンケートを実施しながら総括コーディネーターが全学校を訪問、学校長に対して丹念に事業の説明をし、各学校のニーズに応じた支援活動の聞き取りを丁寧に行った。

宝塚市ではこの事業が始まるずっと前から、多少の違いはあるものの各学校での保護者・地域のボランティア活動が盛んに行われており、それに気づいて既に行われていた活動と上手に融合させながら事業を進めた学校もあった。

宝塚市はこの事業のボランティア募集のリーフレットを作成し、全市的にボランティア募集を展開しながら毎年ボランティア研修会を実施した。これがボランティアの学びの場になるとともに、さまざまなスキルを持つ市民との出会いの場にもなった。

この事業が始まった頃は支援される立場だった児童・生徒が成長してボランティア登録をしたり、ボランティア登録者に配布するこの事業の缶バッジの図案を市内在住の学生がデザインしたりと、成長したかつての子ども自身の参加も見られるようになった。

「子どもたちに元気をもらえる」「特技を生かせる」「仲間ができる」等、ボランティア登録者たちの楽しい活動の輪が広がっていった。

お互いに感謝と尊敬の気持ちで

この事業が9年目に入った平成28年度（2016年度）に「8年目の成果と課題のアンケート調査」を実施し、学校は子どもたちが学ぶ場であるとともに地域住民も互いに学び合い自己実現できる場であることが確認できた。平成27年度（2015年度）には文部科学大臣表彰を受けたことも大きな成果であり、関係者の励みとなった。ボランティア登録者は平成29年（2017年）3月現在で1,300名を超えた。活動を通し子どもたちの成長を見守ることが地域住民の大きな喜びとなっていることの表れである。

この事業は学校とボランティアをつなぐ地域コーディネーターの全校配置が望まれるが、画一的ではなく各学校・地域の実情に応じて進んでいく。

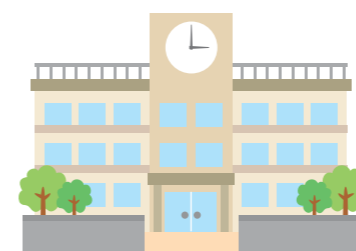
常に学校と丁寧に話し合い、お互いに感謝と尊敬の気持ちを持って接することが、この事業の更なる発展をもたらしてくれるはずである。



すみれが丘小学校 下校見守り活動



安倉小学校 サツマイモの苗植え作業



宝塚市学校支援地域本部事業実行委員会事務局 （宝塚市社会教育課内）

〒665-8665 宝塚市東洋町 1-1
TEL 0797-77-2029
FAX 0797-71-1891